

宿場町赤沢宿

山梨県の山奥には、日本でも数少ない宿場町の1つとして知られる「赤沢宿」と呼ばれる宿場町があります。日本では宿場町とは、小さな村落のことで、旅行者が食事や宿を探すための休憩所としての役割を果たしていました。赤沢宿は、主に日蓮宗の総本山である身延山久遠寺と七面山の間を往来する巡礼者が利用した宿場町でした。

現在もこの地で営業している旅館は2軒のみ。江戸屋と大坂屋。七面山への参拝を希望する場合、体力的に無理な人には、参拝者を駕籠に乗せて登っていくサービスがあります。

赤沢宿の商売が最盛期を迎えた明治時代（1868～1912年）、村内の旅館には一日に千人以上の人が泊まっていたという。各旅館の入り口付近には、「マネギ札」と呼ばれる木製の銘板が掲げられていた。この銘板は、訪れた人たちが自分たちで作ったものです。当初は地味なものでしたが、流行りに乗って、エンボス加工を施した文字や赤や黒の墨で彫ったものなど、どんどん手の込んだものになっていきました。

時代は変わっても、町は今も活気にあふれています。赤沢宿は国の歴史的・文化的に重要な地域に選定されています。豊かな歴史を感じさせる町並みは、今もなお、訪れる人の目を楽しませてくれます。